

# 日本における多文化共生社会の 進展にむけて

～課題と展望～

# 多文化共生社会の進展

- 民族の多様性
  - 「オールド・カマー」
  - 「ニュー・カマー」
- 新しい価値観・価値観の多様化
  - 「社会的弱者」とされてきたマイノリティ・グループからの承認要請

# 多文化共生社会の進展

山積する課題



内実を伴った多文化共生社会へ

# アイデンティティーと教育

# はるな愛

今は、超ハッピー……！  
でも、昔はねえ……。

体は、男。心は、女。

つらい思いをしたんです。

どうして？？

# アイデンティティ



# アイデンティティ



自分の意思で  
選択する

他人の意思に  
よって選択する

# アイデンティティ

選択できる

制度上の問題

選択できない

自分の意思で選択  
する

他人の意思によって  
選択する

純粹な自分の意志  
で選択する

無意識のうちに選択  
させられている

価値観の多様性が否定さ  
れているぞ！  
マジョリティにとっても生き  
にくい社会だぞ！

選擇肢

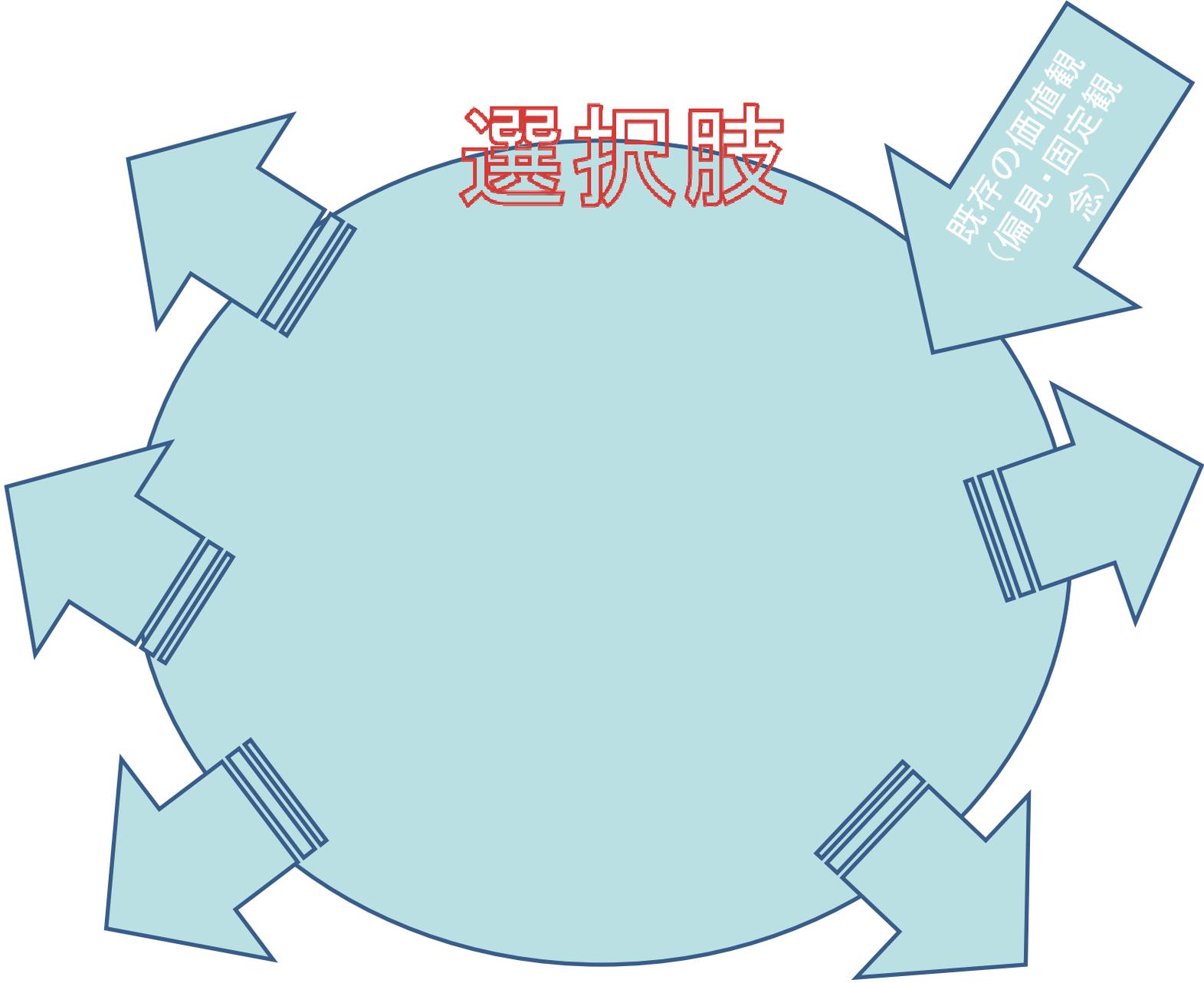
# 選択肢

既存の価値観  
(偏見・固定観念)

枠の中からのしか、選んでいない！

# 選択肢

既存の価値観  
(偏見・固定観念)



# アイデンティティ

選択できる

制度上の問題

選択できない

自分の意思で選択  
する

他人の意思によって  
選択する

純粹な自分の意志  
で選択する

無意識のうちに選択  
させられている

価値観の多様性が否定さ  
れているぞ！  
マジョリティにとっても生き  
にくい社会だぞ！

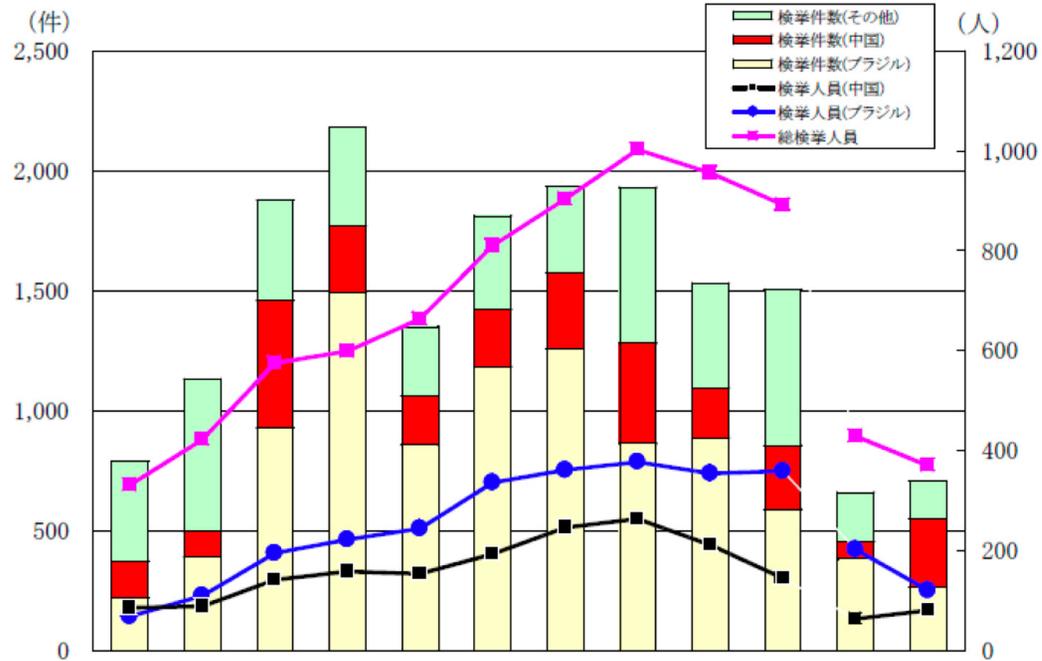
アイデンティティ

# 多文化共生と言語習得支援の展望

—外国人の青少年犯罪の増加に関する考察を通して—

# 外国人青少年犯罪の増加

来日外国人少年 刑法犯検挙 推移



		H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H17上	H18上	増減
総数	件数	788	1,132	1,878	2,180	1,350	1,813	1,934	1,931	1,532	1,505	659	705	46
	人員	331	422	575	599	664	810	904	1,003	956	892	429	370	-59
ブラジル	件数	220	389	928	1,492	857	1,184	1,259	863	887	588	381	261	-120
	人員	68	109	195	222	244	336	361	377	354	359	202	120	-82
中国	件数	154	107	532	276	204	238	315	419	209	267	72	287	215
	人員	85	88	141	158	153	193	246	263	211	144	63	80	17
その他	件数	414	636	418	412	289	391	360	649	436	650	206	157	-49
	人員	178	225	239	219	267	281	297	363	391	389	164	170	6

注：中国に台湾、香港等は含まない。



# 外国人青少年犯罪増加の背景としての不就学問題

○ 「外国人の子供の教育については、十分な学習の機会に恵まれないことなどによる日本語能力不足の子どもが多数存在すること、また、日本語が理解できないことから授業についていくことができず不登校になる子供の存在、更には公立学校、外国人学校のどちらにも在籍しない不就学児の存在など、早急に解決しなければならない課題が多い。中でも、不就学・不登校の子どもは、犯罪に巻き込まれたり、手を染めたり危険性が高くなるほか、業務請負や派遣といった間接雇用の形態で非熟練労働に従事する者もいるなど、社会的な問題になっている」

『多文化共生の県づくりに向けて』愛知県文化共生社会づくり推進会議報告書  
(2007年3月愛知県多文化共生社会づくり推進委員会)

○ 不就学の状況は、中学、高校に進学するに従い高くなり、非行の温床ともなる。地方自治体や公立学校だけではなく、外国人学校、地域のNPO・NGOなどが協力して、保護者の子女教育に関する理解を深めることが、子女にとっても地域にとっても必要なことであろう。

(『2003年11月14日 日本経済団体連合会 産業問題委員会・雇用委員会 外国人受け入れ問題に関する中間とりまとめ』より)

## 何が不就学児童の増加を助長しているか？

- 日本語の未習熟→ディスコミュニケーション
- 生活習慣の違い→文化的不適応
- 学力格差への無配慮（制度面における）
- 支援対策の遅れ（キャパシティを超える要支援者の数）

# なぜ支援は遅れているのか？

例えば

「日本国憲法第二六条には『教育を受ける権利』と『普通教育を受けさせる義務』が謳われています。しかしながら『**外国籍又は無国籍の児童には就学義務がない**』（政府見解）ため、小中学校就学年齢にありながら学籍を有さない『不就学』の子どもたちの問題は、ごく最近までほとんど何の対策もとられてきませんでした。日本人には『不登校』はあっても『不就学』はありません。」

（（財）滋賀県人権センター発行『じんけん』2006年10月号）

さらに言えば

**ホスト社会のコストの問題**

**マジョリティ側の「必要」感覚の無さ？**

## 外国人児童の言語習得をめぐる問題

For minority

- 1) 母語継承の願望
- 2) 社会的参画への  
機会の制限
- 3) 経済的自由／機  
会の制限  
＝将来展望の不明  
確さ

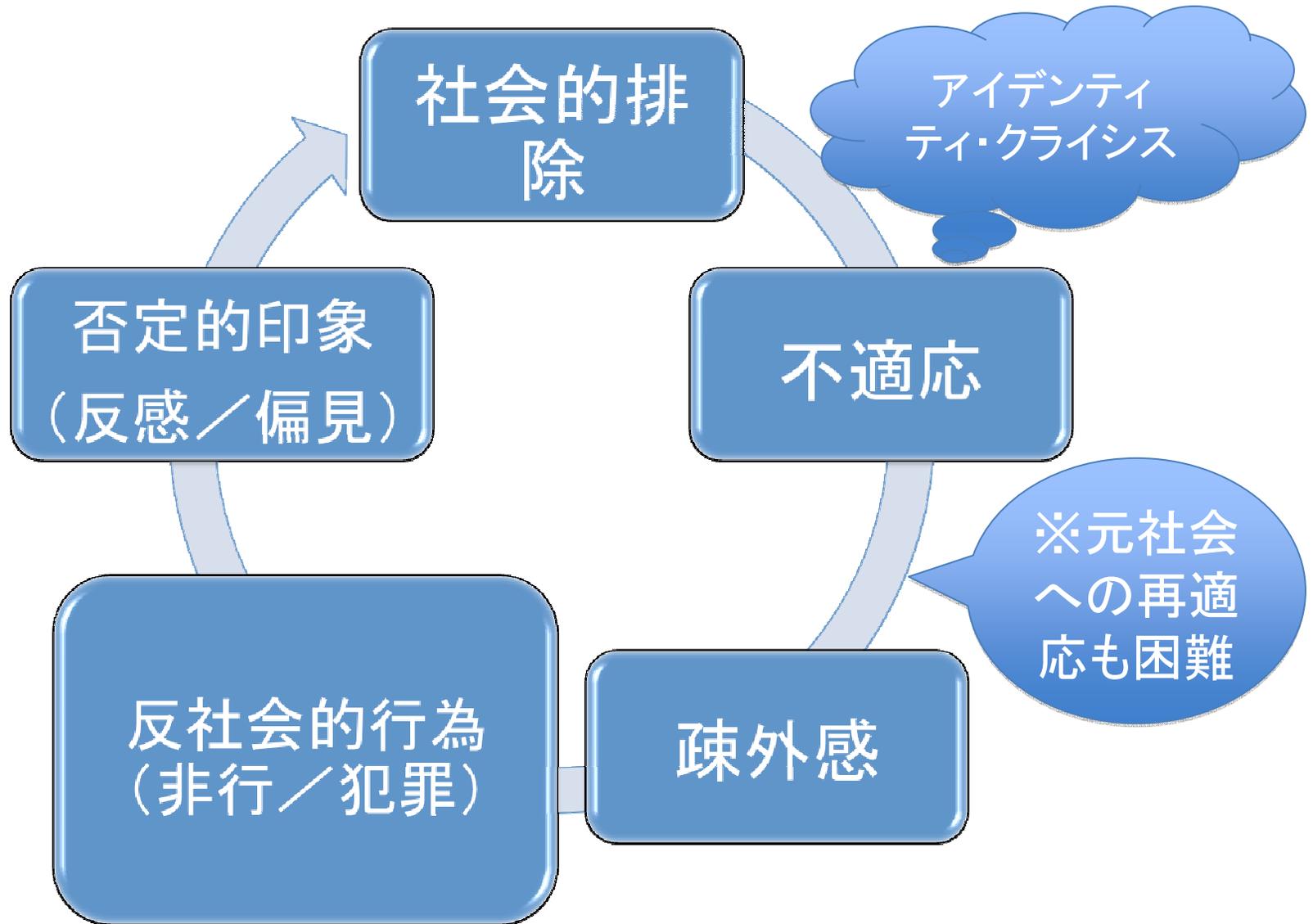


- 1) アイデンティティ・  
クライシス
- 2) 疎外感
- 3) 格差の是正困難



社会的排除

# 支援の不十分さがもたらす悪循環



# 言語習得支援を通して多文化共生を促進 するために



- マジョリティー側にたいしても安全性などに関して危機がせまっている！！
  - 実際は今なんとかしなくてはならない、切迫性のある問題
  - これらがマジョリティーにとっても重要かつ緊急の問題である
- という**気づきをマジョリティーに促すこと**がまず  
早急に必要なのかもしれない。

# xenophobia

- 外国人嫌悪
- 外国人嫌い
- など

# xenophobia

一般に、外国人に対する嫌悪、恐怖心を意味

明確に表出された感情・行為

に加えてはっきり表に出てこない感情をも含む  
概念。

# 外国人入浴拒否事件

- 2000年10月末
- 小樽湯の花温泉
- 「Japanese only」
- ミタメは「外国人」?! でも「日本人」
- 米国出身有道出人さんに対する入浴拒否

# 事件に関する要因

- 小樽港に来るロシア人船員の入浴がきっかけ
- 石鹸の泡をつけたままの入浴
- 風呂場で酒を飲んで騒ぐ
- 常連客が離れ、閉店を余儀なくされた店もある

⇒【個別的要因】

# 事件に関する要因

- “外国人＝マナーが悪い”というカテゴリー化
- 日本人vs外国人という二項対立

→排他的な社会構造の縮図なのでは？

⇒【社会的要因】

# xenophobia

一般に、外国人に対する嫌悪、恐怖心を意味

明確に表出された感情・行為

に加えてはっきり表に出てこない感情をも含む

概念。

# なぜxenophobia？

- 単一民族史観
- 自民族中心主義
- ステレオタイプ

# 多文化共生社会の展望

- 社会的な制度やしくみの整備化
  - 継続的な意識改革
- ⇒ 多文化共生に向けた教育活動の拡充